令和５年度
横須賀美術館　運営評価報告書

令和６年（2024 年）８月

横須賀市文化スポーツ観光部

美術館運営課

目次

１　令和５年度　横須賀美術館の運営評価について　. 1

２　令和５年度の運営評価システム　. 3

３　令和５年度の運営評価結果　. 6

① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。　. . 7

② 市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。　. 16

③ 調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。　. 20

④ 学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する。　. 27

⑤ 所蔵作品を充実させ、適切に管理する。　. 31

⑥ 利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する。　. 34

⑦ すべての人にとって利用しやすい環境を整える。　. 38

⑧ 事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に
運営・管理する。　. 41

４　横須賀美術館運営評価委員会　委員名簿　. 44

５　横須賀美術館運営評価委員会条例　. 45

１　令和５年度　横須賀美術館の運営評価について

（１）運営評価の目的

横須賀美術館の運営評価は、現在行っている活動を振り返り、適正に行われているかを自己点検することで課題や反省を自覚し、改善点の検討につなげるものです。

美術館は１年間の活動をまとめ、自らの評価（一次評価）を行います。一次評価を運営評価委員会に報告し、運営評価委員会は活動内容を市民目線でチェックし、二次評価を行います。併せて、美術館の業務改善、よりよい活動につなげていくことを目的として、改善点や活動の提言を行います。

５頁に掲載した図のとおり評価全体の流れは PDCA サイクルによる改善を基本としています。個々の業務を計画(P:Plan)し、実行(D:Do)していき、その内容を評価(C:Check)し、これを改善(A:Action)につなげていきます。

毎年この活動を繰り返していくことで、よりよい横須賀美術館を目指していくものです。

（２）評価項目

横須賀美術館は、その設置条例第１条に「美術を通じたさまざまな交流の機会を促進し、市民の美術に対する理解と親しみを深め、もって文化の向上を図る」と、設置の目的を明記してあります。そしてこの目的に沿った「使命」を掲げ、「使命」に基づいた「目標」を示し、この目標を評価項目として体系づけました。それぞれの目標には、「達成目標」と「実施目標」を掲げ、これが具体的な評価をしていく項目となります。

なお、「達成目標」は数的指標であり、具体的な数値目標が示されるため、達成の成否は客観的に明らかです。評価者は、その他の資料もあわせみたうえで、達成の度合いを判断し、総合的な評価を行います。

いっぽう、「実施目標」は質的指標であり、評価者は、運営者の行動報告に基づいて、主観的評価を行います。

評価項目は、「令和５年度評価システム」として３～４頁をご覧ください。

（３）評価基準

達成目標と実施目標共通の基準を設けています。

目標に到達したかを「Ｓ」から「Ｄ」の５段階とし、以下の基準としました。

Ｓ：優れた成果を挙げている
Ａ：目標を達成している
Ｂ：目標をほぼ達成している
Ｃ：目標にはほど遠い。より一層の努力を要する
Ｄ：努力が結果に結びついていない。方法そのものについて再検討を要する

上記のほか、Ｆ：判定不能を設けています。

＊現在の評価項目は、平成 22 年度に見直し、現在に至っています。

【目標の性格】（平成 22 年度から）

「目標」ごとに、「達成目標」と「実施目標」を設けた。

「達成目標」：数的指標
- 「目標」の達成度合いを端的にしめす数値目標。
- 主に外的要因（来館者の動向など）によって結果が左右される。
- 達成したかどうかは客観的に判断される。

（達成した場合のＳ/Ａの別、達成しなかった場合のＢ～Ｄの別は、各委員の裁量の範囲。）

「実施目標」：質的指標
- 「目標」を達成するための行動計画。
- 運営者側の計画的な行動であり、充分であるかどうかは各委員の主観的な判断による。
- 端的な指標に過ぎない「達成目標」のみでは把握できない部分を補う役割がある。

【評価基準】

「達成目標」と「実施目標」に共通の評価基準を適用する。

評価基準 （平成 22 年度から）	
すぐれた成果を挙げている。	S
目標を達成している。	A
目標をほぼ達成している。	B
目標にはほど遠い。 より一層の努力を要する。	C
努力が結果に結びついていない。 方法そのものについて再検討を要する。	D

判定不能	F

Ｓ～Ｄの５段階評価に、「Ｆ」（判定不能）を加えた。「Ａ」と「Ｂ」の間に「目標」がある。
- 目標を達成していれば「Ａ」以上となり、よい評価であることがわかりやすい。
- 目標より下に段階を設けることにより、目標を達成していない場合、その度合いを表現しやすくなった。
- 結果が著しく劣っている、あるいは努力の方向が間違っているために、方法そのものの再検討が必要な場合のために、「Ｄ」評価を設けた。
- 専門的な知識が必要であるなどの理由から、評価ができないという場合のために「Ｆ」（判定不能）を設けた。

２　令和５年度の運営評価システム

使命	目標	指標		データなど
Ⅰ 美術を通じた交流を促進する　【集客･交流推進】				
	①広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。〔広報〕			
		達成目標	・年間観覧者数118,000人以上	・年間観覧者数（年度別推移） ・年間来館者数（年度別推移） ・駐車場利用状況（年度別推移） ・来館回数（年度別推移）　＊リピート率 ・居住地域（年度別推移）　＊市民率 ・交通手段（年度別推移）
		実施目標	・様々な広報媒体の特性を生かして、効果的な広報活動を実施し、交流を促進する。 ・各種イベントを開催し、展覧会以外の要因での利用を増やす。 ・外部連携を推進し、様々な機会と場所を捉えて、美術館の情報を発信する。 ・旅行会社などへの働きかけを通じて、団体集客を促進する。 ・美術館のイメージアップにつながるようなTV放送、雑誌取材、プロモーションビデオ撮影などの商業撮影、取材を受入れる。	・各種メディアへの掲載実績 ・訴求活動の概要（ポスター等配布、リリース発送の状況）
	②市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。〔市民協働〕			
		達成目標	・市民ボランティアの活動者数および協働事業への参加者数延べ1,700人	・各事業ごとの開催回数、参加者数の一覧 →サポボラ研修 所蔵品展ギャラリートーク（参加者数、参加ボランティア数） 小学校鑑賞会補助（参加ボランティア数のみ） ワークショップ補助（参加ボランティア数のみ） プロジェクトボランティア会議 プロジェクトボランティアイベント（参加者数、参加ボランティア数）
		実施目標	・市民が美術館に親しみを感じ、訪れる機会をつくる。 ・市民ボランティアが、やりがいを持っていきいきと活動できる場を提供する。	・ボランティア関連事業の概要 ・（ボランティアの感想・反応）
Ⅱ 美術に対する理解と親しみを深める　【社会教育】				
	③調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。〔展覧会・教育普及〕			
		達成目標	・企画展の満足度80％以上	・各企画展の満足度 ・所蔵品展の満足度（年度別推移） ・谷内六郎展の満足度（年度別推移）
		実施目標	・幅広い興味に対応するようバランスをとりながら、年間6回（児童生徒造形作品展を含む）の企画展を開催する。 ・所蔵品展・谷内六郎展をそれぞれ年間4回、テーマをもたせた特集を組みながら開催する。 ・知的好奇心を満たし、美術への理解を深める教育普及事業を企画・実施する。 ・美術への興味や理解が深まる美術関連の資料（図書、カタログ等）を収集し、図書室で整理・保管し利用者の閲覧に供する。 ・主として所蔵作品・資料に関する調査研究を行い、その成果を美術館活動に還元する。	・各企画展（児童生徒造形作品展を除く）の概要（ねらい、担当者の感想・反省点） ・所蔵品展の概要（同） ・谷内六郎展の概要（同） ・講演会・アーティストトーク等の実施状況（同） ・大人向けワークショップ等の実施状況（同） ・図書室の概要（図書新規購入額・点数、寄贈図書の点数） ・図書室の利用状況（利用者の月別推移、担当者の感想・反省点） ・学芸員による論文、発表等

④学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する。 〔若年層への教育普及〕

達成目標	・中学生以下の年間観覧者数22,000人	・観覧者数の券種別内訳（月別推移、年度別推移） ・子どもを対象とした教育普及事業の参加者数（延べ人数の年度別推移）
実施目標	・学校における造形教育の発表の場として、児童生徒造形作品展を実施する。 ・学校及び関係機関と緊密に連携し、子どもたちにとって親しみやすい鑑賞の場をつくる。 ・学校との連携を強化し、小学生美術鑑賞会を充実させる。 ・美術館を活用した鑑賞教育がいっそう充実するよう、先生のための美術館活用講座をはじめ、教員の授業作りに有益な情報提供を積極的に行う。 ・子どもたちとのコミュニケーションを通じて、美術の意味や価値、美術館の役割などに気づき、考え、楽しみながら学ぶ機会を提供する。 ・鑑賞と表現の両方を結びつけたプログラムを実施する。	・児童生徒造形作品展の概要（担当者の感想・反省点）（学校側の反応） ・小学校美術館鑑賞会の概要（実施内容、学校数、児童数、対応職員・ボランティア数、担当者の感想・反省点）（学校側の反応） ・中学生のための美術鑑賞教室の概要（実施内容、担当者の感想・反省点）（生徒の感想） ・子ども向けワークショップ等の実施状況 ・研修等の受入れ状況

⑤所蔵作品を充実させ、適切に管理する。 〔収集管理〕

達成目標	・環境調査の実施（年2回） ・美術品評価委員会の開催（年1回）	・作品収集の状況 ・保管環境の状況 ・所蔵作品の修復状況 ・所蔵作品の貸出状況（件数、点数）
実施目標	・収集方針に基づき、主体性を持って積極的な収集活動を行う。 ・作品の保管、展示について適正な環境を維持し、そのチェックのため必要な調査を実施する。 ・計画的に所蔵作品の修復、額装を行う。 ・所蔵作品が広く価値を認められ、他の美術館等で開催する企画展などに活用されている。	

Ⅲ訪れるすべての人にやすらぎの場を提供する 【運営・管理】

⑥利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する。 〔メンテナンス・来館者サービス〕

達成目標	・館内アメニティ満足度90%以上 ・スタッフ対応の満足度80%以上	・アメニティ関連各項目の満足度（年度別推移） →全般・館内印象・館内環境・休憩所・トイレ・清掃 ・スタッフ対応の満足度（年度別推移）
実施目標	・建築のイメージを損なわないよう、十分なメンテナンス、館内清掃を行う。 ・受託事業者と協力して、ホスピタリティのある来館者サービスを実践する。 ・運営事業者と協力して、付帯施設（レストラン及びミュージアムショップ）を来館者ニーズに応じて運営する。	・メンテナンスの概要 ・運営事業者連絡会議の概要（議題等） ・ケータリング実績

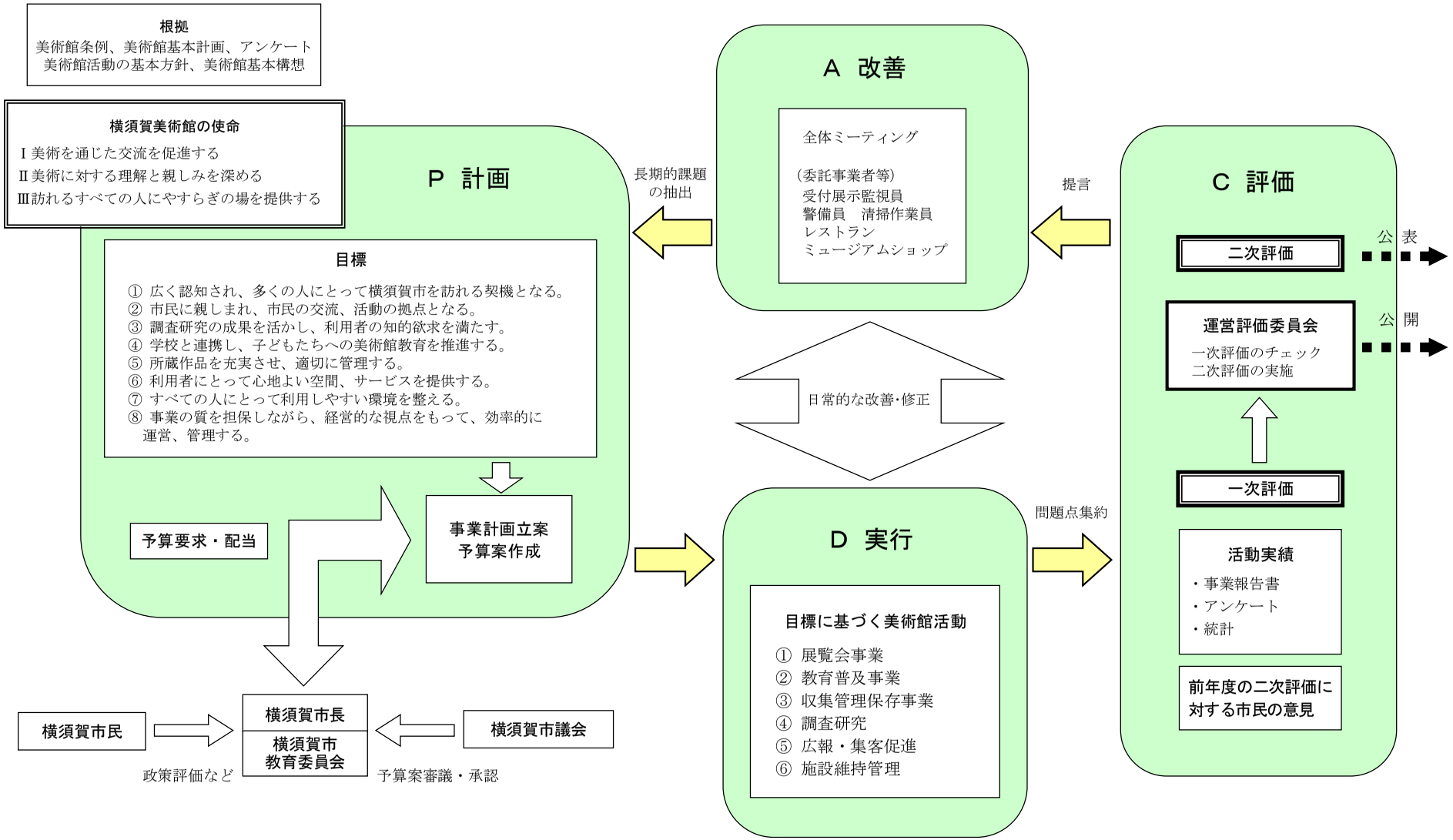
⑦すべての人にとって利用しやすい環境を整える。 〔バリアフリー〕

達成目標	・福祉関連事業への参加者数延べ175人以上	・福祉関連事業の開催回数、参加人数 →福祉関連講演会 福祉関連ワークショップ 福祉関連パフォーマンス 障害児を対象としたワークショップ
実施目標	・年齢や障害の有無などにかかわらず、美術に親しんでもらう（環境づくりの）ための各種事業を行う。 ・必要に応じて、対話鑑賞等の人的サポートを実践する。 ・展覧会の観覧やワークショップ等に参加される保護者向けの託児サービスについて、積極的に周知し、利用しやすい内容で実施する。	・福祉関連講演会の概要 ・福祉関連ワークショップの概要 ・福祉関連パフォーマンスの概要 ・障害児を対象としたワークショップの概要 ・託児サービスの概要 ・養護学校等の受け入れ状況

⑧事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する。 〔経営的視点〕

達成目標	・電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数を、過去2年間の平均値を目安とする。	・エネルギー消費量一覧
実施目標	・職員全員が費用対効果を常に意識し、事業に取り組む。	・歳入及び歳出の内訳

横須賀美術館運営評価システムの全体像



３　令和５年度の運営評価結果

Ⅰ　美術を通じた交流を促進する

① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。

〔一次評価〕

達成目標	実施目標
S	S

【達成目標】年間観覧者数 118,000 人以上

［目標設定の理由］

・「横須賀市立美術館基本計画」（平成 12 年６月策定）では、他の公立美術館の実績を参考に、施設の規模、本市の人口などから年間観覧者数を 10 万人と推定し、年間観覧者数の目標としてきましたが、近年の観覧者数（平成 29 年度～令和元年度）は、いずれも 11 万人を超えていました。

令和４年度は開館 15 周年を迎え、運慶展等で、多くのお客様に観覧いただき、目標の 12 万人を達成することができました。令和５年度においても、集客が見込める展覧会を開催することから、11 万８千人を年間観覧者の目標とすることとしました。

・観覧者の見込み数は、展覧会ごとの開催時期や過去に開催したターゲットの近い展覧会の実績などを勘案し算定しています。

［一次評価の理由］

・年間観覧者数118,000人という目標設定に対し実績は、162,022人となり、達成率137.3%と目標を上回ったことから、「S」評価としました。

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
観覧者数	48,827 人	91,809 人	142,690 人	162,022 人

	展覧会名	会期	見込(人)	実績(人)	達成率(%)
企画展	(令和4年度) 土方重巳の世界	4/1-4/9	3,000	3,766	125.5
	朝井閑右衛門展	4/22-6/18	12,000	12,826	106.7
	New born 荒井良二	7/1-9/3	30,000	35,117	117.1
	ﾛｲﾔﾙ ｺﾍﾟﾝﾊｰｹﾞﾝと北欧ﾃﾞｻﾞｲﾝの煌めき	9/16-11/5	20,000	18,608	93.0
	躍動する韓国ｲﾗｽﾄﾚｰｼｮﾝの世界	11/18-12/24	9,000	8,997	99.9
	第76回児童生徒造形作品展	1/11-1/29	14,000	16,479	117.7
	日本の巨大ロボット群像	2/10-4/7	20,000	31,369	156.8
	鈴木敏夫とジブリ展	3/20-6/18	－ (15,900)	26,475	－ (166.5)
所蔵品展のみの期間		上記以外	10,000	8,385	83.9
計			118,000 (133,900)	162,022	137.3 (121.0)

※括弧内数値は、令和５年度中に開催が決定した「鈴木敏夫とジブリ展」を加味。

【実施目標】

・様々な広報媒体の特性を生かして、効果的な広報活動を実施し、交流を促進する。
・各種イベントを開催し、展覧会以外の要因での利用を増やす。
・外部連携を推進し、様々な機会と場所を捉えて、美術館の情報を発信する。
・旅行会社などへの働きかけを通じて、団体集客を促進する。
・美術館のイメージアップにつながるようなＴＶ放送、雑誌取材、プロモーションビデオ撮影などの商業撮影、取材を受入れる。

［目標設定の理由］

・横須賀美術館は、本市の貴重な都市資源であり、これを有効活用することは、本市の観光立市の推進という観点からも重要になります。市内外に積極的に情報を発信して広い層に魅力をアピールすることで知名度や認知度を向上させていくことが必要と考え、実施目標として設定します。

・広報、パブリシティ活動にあたっては、当館の利用者層や展覧会ごとのターゲット層に応じた効果的な広報を実施します。

・そのために、様々な広報媒体をその特性を踏まえて効果的に活用し、特に若い世代に対しては積極的にＸ（旧ツイッター)、インスタグラムなどのＳＮＳを活用していきます。

・Wi-Fi 等を活用し、来館者に魅力的な情報提供、情報発信を促します。

［一次評価の理由］

・令和５年度は、これまで開館前にエントランスにて開催していたコンサートを、開館中の展示室内で開催し、横須賀美術館の建物の特徴である吹き抜けの地下ギャラリーで作品鑑賞とあわせて音楽を楽しんでいただく新たな取り組みを行いました。また、夏季期間中も柔軟に団体観覧の受け入れを行ったほか、季節の花情報とあわせたＳＮＳ投稿キャンペーン「アジサイ割」の実施、テレビＣＭやドラマ撮影、有名アーティストのミュージックビデオ撮影など影響力の大きな商業撮影の積極的な受け入れを行ったことなどから、「Ｓ」評価としました。

≪広報・集客促進事業≫

展覧会、イベント、ロケーションなど横須賀美術館の魅力をフル活用し、横須賀の交流拠点として集客に取り組んでいきます。そのために、企画展情報だけでなく、美術館の総合的な魅力や外部との連携による地域情報を積極的に発信していきます。

（１）訴求活動による集客促進

・パブリシティを期待した新聞、雑誌等への展覧会リリース

・全 498 件の情報掲載のうち、新聞、雑誌等の無料での情報掲載数は 478 件となり、例年目標としている 220 件を 2.17 倍上回る数字を達成することができました。

（単位：件）

媒体	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
新聞	99	130	157	84
雑誌	32	21	60	71
Web	57	76	72	171
フリーペーパー	60	105	103	87
書籍	10	6	1	5
会報誌	0	0	0	0
TV	13	11	13	23
ラジオ	8	2	15	32
その他	23	2	15	25
合計	302	380	436	498

・広報よこすか等他部局の広報媒体を活用した情報発信

⇒広報よこすかへの展覧会情報、美術館のイベント等の掲載

・公共交通機関への広告掲出

⇒京浜急行線　駅貼り（１週間）３回

※ 朝井閑右衛門展、荒井良二展、韓国イラストレーションの世界展で実施

⇒京浜急行線　窓上（１週間）１回

※ 朝井閑右衛門展で実施

⇒京浜急行線　駅貼り（会期中随時）１回

※ ロボット展で満喫きっぷとのタイアップ実施

⇒ＪＲ線　駅貼り（１週間）１回
※ 韓国イラストレーションの世界展で実施
⇒東急線・みなとみらい線　駅貼り（１週間）１回
※ ロイヤル コペンハーゲン展で実施
⇒京王線　新宿駅・渋谷駅など駅貼り（会期中随時）５回
※ 児童生徒造形作品展を除く各企画展で実施
・その他広告掲出
⇒京急線横浜駅サイネージ（荒井良二展、ロボット展）
中野ブロードウェイ、秋葉原オノデンビジョン、ＪＲ秋葉原駅昭和通り
ビジョンサイネージ（ロボット展）
・SNS（X、フェイスブック、インスタグラム）による有料広告
⇒荒井良二展、ロイヤル コペンハーゲン展、韓国イラストレーションの世界
展、ロボット展で実施
・美術系雑誌やタウン紙等、有料での情報掲載
⇒新聞、タウン紙、雑誌等での広告
はまかぜ新聞（第４期所蔵品展）
・プレスリリース配信
⇒PR TIMES（朝井閑右衛門展、アジサイ割、第１期所蔵品展）
・インバウンド推進のための外国語情報発信の拡充
・⇒ホームページリニューアルによる多言語に対応（令和４年３月より本格運用）
英語、中国語（簡体字・繁体字)、韓国語、ほか自動翻訳機能対応
・ホームページ、X、フェイスブック、インスタグラムを活用した情報発信
⇒桜、紫陽花、ネムノキなど、季節の花情報を追加・拡充し、観音崎地域の周
遊を図る情報発信を行っています。
令和５年度は、美術館園路のアジサイを撮影してＳＮＳに投稿すると企画
展が割引になる「アジサイ割」を実施
⇒美術館公式Xの運用状況
フォロワー数は18,611人で昨年度末16,865人より約1,746人増加しました。

【参考】2024年３月31日現在　フォロワー：18,611人
※ X（旧ツイッター）は平成24年９月29日より運用開始
⇒フェイスブックの運用状況
（運用開始:谷内六郎館 平成 27 年７月 31 日～、横須賀美術館９月９日～）
2024 年３月 31 日現在
横須賀美術館フォロワー：4,922 人、谷内六郎館フォロワー：677 人
⇒インスタグラムの運用状況
（運用開始：令和３年３月４日）
フォロワー：9,828 人（2024 年３月 31 日現在）
ＳＮＳ毎の特性を活かした情報発信に努めていきます。

（２）イベント開催など展覧会以外の要因で利用者を増やす取り組みの推進
・コンサート等、各種イベントの開催

実施日	イベント名	参加者
4/14	Monthly Welcome Music in April	79人
5/15	Monthly Welcome Music in May	78人
6/15	Monthly Welcome Music in June	96人
7/14	Monthly Welcome Music in July	83人
8/20	サマーコンサート	67人
9/2	即興アートバトル 筆ロック　ー関東大会 FINALー	200人
9/15	Monthly Welcome Music in September	42人
10/13	Monthly Welcome Music in October	85人
11/18	第1回　日韓の音楽家によるクラシックコンサート	147人
12/10	横須賀美術館の“建物”と明治時代の“構造物・砲台跡”ガイドツアー	21人
12/15	Monthly Welcome Music in December	62人
1/15	Monthly Welcome Music in January	58人
2/15	Monthly Welcome Music in February	101人
3/2	スプリングコンサート	64人

・年間パスポートの販売

	令和5年度	
	販売枚数	利用回数
パスポート	164 枚	753 回

※令和２年度以降、コロナの影響により販売休止していたが再開

（３）外部連携の推進

①他部局との連携

・koyart プロジェクト　農水産業振興課と連携した「よこすか野菜のＰＲ」
・まちなみ景観課と連携した「Yokosuka Art Valley HIRAKU」の特集展示、連携ワークショップの開催
・「いくらでもスープ」　学校食育課と連携して、谷内六郎の誕生日にあわせ、学校給食で谷内六郎にちなんだメニューを提供
・観光課「よこすかカレーフェスティバル」への協賛
・横須賀市観光協会「横須賀ウォーカーズガイドキーワードラリー」への協賛
・企画課「マイナビ JapanCup Yokosuka」への協賛
・商業振興課「東京九州フェリー見学会」、商業振興課後援「ゆかた DE スカブラ」「ヨコスカハロウィンフェスティバル」への協賛

・企画調整課「すかりぶでのイベント」「１万メートルプロムナードでのイベント」「プログラミング教室参加者アンケート」「Yokosuka Daily Peace Project」等
・子育て支援課「横須賀市保育士就職セミナー・相談会」
・教育政策課「教育フォーラム」
・窓口サービス課「婚姻届上質紙受理証明書請求者」
・米海軍横須賀基地在住者の誘致
⇒What’s New in Yokosuka（市ホームページ内外国人住民向け情報ページ）への展覧会情報の掲載

外国人観覧者数（H28 年度から集計）

	西洋系	東洋系	その他	計
R1 年度	588 人	963 人	102 人	1,650 人
R2 年度	243 人	486 人	30 人	759 人
R3 年度	416 人	641 人	36 人	1,093 人
R4 年度	451 人	657 人	70 人	1,178 人
R5 年度	1,308 人	1,921 人	182 人	3,411 人

・ふるさと納税へ商品提供
⇒観覧券＋レストランアクアマーレ食事券の提供

②民間事業者との連携
・民間事業者との広報協力、イベント参加による情報発信
⇒タイアップメニュー（アクアマーレ　展覧会コラボレーションメニュー）
⇒広報協力（ラビスタ観音崎テラス、湯楽の里、東京湾フェリー、ソレイユの丘ほか）
⇒各種学園祭等のイベント協力によるＰＲ（実践女子大学、東京大学、慶応義塾大学等　22 校）
⇒はまかぜ新聞社、横須賀市観光協会への協賛
・福利厚生団体等との割引施設契約の実施
⇒ＪＡＦ、ベネフィット・ステーション、リロクラブ、神奈川県厚生福利振興会　神奈川県市町村職員共済組合　など
・京浜急行電鉄「よこすか満喫きっぷ」「三浦半島まるごときっぷ」への参加

種類／年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度
よこすか	1,050 人	1,765 人	1,960 人
三浦半島	21 人	35 人	53 人

※「よこすか満喫きっぷ」は H29 年 7 月、「三浦半島まるごときっぷ」は R2 年 10 月参加
・エル・デコ デジタル「世界の絶景美術館」に選出された
・渋谷ヒカリエで開催された「d design travel KANAGAWA EXHIBITION」への展示品貸し出し

・京浜急行電鉄　三浦 COCOON「三浦半島モビリティクエスト！デジタルスタンプラリー」

③近隣地域との連携

・町内清掃、防犯パトロールなど地域活動への参加
⇒観音崎海岸清掃、近隣町内会清掃活動への参加
・観音崎全体の魅力を向上させるためのイベントの開催
⇒観音崎フェスタへのポスター掲出
・地域での消費活動を促進する取り組みの検討
⇒タイアップメニュー（展覧会コラボレーションメニュー）の実施
併設レストランアクアマーレで企画展、特別展にあわせて実施
⇒観音崎施設共通割引（観音崎自然博物館、BEACH⇔PARK LIVING）への参加
⇒ koyart プロジェクト　大学研究室や企業との連携
・協賛企業の募集（展覧会に協賛（寄附）をしてくれる企業を募集）
⇒令和５年度応募実績：１社
一般財団法人シティサポートよこすか（ロイヤル コペンハーゲン展）

（４）団体集客の推進

・民間事業者と連携した旅行会社への団体ツアーの企画提案、誘致
⇒神奈川県主催モニターツアー受入
⇒パシフィコ横浜「ユニークベニュー体験会」
⇒夏季期間中の積極的な募集型企画旅行受け入れに伴う観覧者増
・ウェルカムトークの実施
⇒コロナ禍以降、様子をみながら希望に応じて実施

	令和２年度		令和３年度		令和４年度		令和５年度	
	団体数	観覧者数	団体数	観覧者数	団体数	観覧者数	団体数	観覧者数
募集型	2	44	39	1,160	99	3,648	181	6,501
その他	7	281	18	1,146	182	4,442	184	6,947
計	9	325	57	2,306	281	8,090	365	13,448

（５）商業撮影、取材の受入と誘致

・イメージアップと認知度の向上を目的に商業撮影を受け入れた。
⇒テレビＣＭやドラマ撮影、有名アーティストのミュージックビデオ撮影などを積極的に受け入れた。所蔵作品のある展示室内における撮影にも試みた。

年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
撮影件数	5件	40 件	24 件	32 件
使用料	206,109 円	3,026,225 円	2,460,034 円	2,402,239 円

（６）「鈴木敏夫とジブリ展」について

「鈴木敏夫とジブリ展」は、横須賀市と民間企業が出資した開催委員会を設置して、開催しました。これにより、民間企業が持っているパイプやノウハウを生かすことが可能となり、「訴求活動による集客促進」「民間企業との連携」「地域との連携」についても、過去に例がない規模、手段により実施することができました。鈴木敏夫とジブリ展について、最終的な報告は令和６年度に行いますが、ここでは、令和５年度中に実施した主なものを記載します。

①訴求活動による集客促進

・京急線各駅にポスター掲出

・京急バスによる「鈴木敏夫とジブリ展」ラッピングバスの運行

・大型屋外広告の掲出（コースカベイサイドストアーズ、リドレ横須賀、三笠商店街、若松マーケット「ローソン・スリーエフ」横須賀中央駅前店、三笠ターミナル）

・タウンニュース広告掲載（3/8 号、3/15 号、3/22 号）

②民間企業との連携

・京急バスによる馬堀海岸駅～観音崎路線のバス増便

・横須賀商工会議所所属店舗によるポスター掲出

③地域との連携

・スタンプラリーの実施（スタンプ箇所：浦賀駅、馬堀海岸駅、横須賀モアーズシティ、三笠ターミナル、コースカベイサイドストアーズ、いちごポートマーケット、若松マーケット「ローソン・スリーエフ」横須賀中央駅前店、ドブ板通り「ドブ板ステーション」）

・横須賀商工会議所所属店舗による「応援キャンペーン」の開催（鈴木敏夫とジブリ展半券提示でドリンクサービス、Ｘ％オフ等）

・若松マーケットによる提灯掲出

〔評価委員会による二次評価及びコメント〕

	一次評価	二次評価	評価委員会コメント
達成目標	S	S	・横須賀美術館を横須賀市の貴重な都市資源であるとした捉え方は重要であり、そうした視点に立脚しての有効活用についての考え方を評価する。[小林] ・ジブリ展の入場者数を加えなくても、目標を大きく超えた点を評価します。[柏木] ・ジブリ展などの開催により多くの露出及び集客に務められていると考えます。[関口] ・目標観覧者数を大幅に超えて多くの方が来ている。[前波] ・達成目標の人数設定の根拠について、どこかに記載がありましたらお知らせください。[前波]
	一次評価	二次評価	評価委員会コメント
実施目標	S	S	・様々な広報媒体の特性を活かし、効果的な広報活動の実施に向けての、各種イベントの開催を含めた前向きな働きかけを、評価したい。[小林] ・館の魅力を総合的にアピールする新たな取り組みに着手した点を評価します。[柏木] ・各媒体での販促活動を行われていると考えます。[関口] ・自身も発信力のある若年層に向け、積極的に横須賀美術館の魅力をアピール出来るSNSの活用は大変有効であると思います。芸術系大学へのアプローチもいつも気になっておりましたが、チラシやポスターを送付され、掲出依頼をされているとのこと、ぜひ続けて頂きたいです。[倉田] ・市内では広報物を度々目にする機会がある一方で、勤務先の横浜市内で目にする機会が少なかったように思う。横須賀市近郊の方にも知っていただく機会が広がると良いと感じた。[前波]

② 市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる

〔一次評価〕

達成目標	実施目標
C	B

【達成目標】市民ボランティアの活動者数および協働事業への参加者数 延べ 1,700 人

［目標設定の理由］

・活動者数および協働事業への参加者数は、「活動が活発に行われているか」「魅力的な活動を企画しているか」をはかるための指標のひとつとなるものです。

・令和５年度の目標は、参加者数延べ 1,700 人とします。

・令和５年度はボランティアを新規募集するため、研修の回数が増えます。

・ギャラリートークを再開します。

＊ギャラリートークボランティア登録者数　19 名（令和５年３月末時点）

・小学生美術鑑賞会ボランティアは従来どおり、鑑賞会ごとにボランティアを配置する予定です。

＊小学生美術鑑賞会ボランティア登録者数　19 名（令和５年３月末時点）

・みんなのアトリエボランティアは、対面ワークショップを再開するため、各回配置する予定です。

＊みんなのアトリエボランティア登録者数　10 名（令和５年３月末時点）

・プロジェクトボランティアの活動については、海の広場などを活用した誰でも参加できるイベントを年２回実施します。

＊プロジェクトボランティア登録者数　14 名（令和５年３月末時点）

［一次評価の理由］

目標に対して72.1%の達成率であったため、一次評価をＣとしました。ギャラリートークボランティアについては、ギャラリートーク再開に向けて、研修を再開し、11月より定期的にギャラリートークを実施しました。新しく３名が活動に加わったため、ツアー式ではなく、作品の前でお客様を迎える方法を試行したところ、多くのお客様が足を止めてくれたようです。小学生美術鑑賞会ボランティアの活動については、新しく４名が活動に参加し、特に問題なく小学校を迎え入れることができました。また、コロナ禍前より学んでいた対話による鑑賞の研修を再開し、１月以降に来館した小学校を対象に、試行することができました。みんなのアトリエボランティアについては、ボランティア希望者が増え、11月以降は十分な人数でみんなのアトリエをフォローすることができました。プロジェクトボランティアについては、年３回のイベントを実

施しました。イベントの準備活動も予定どおり行っていましたが、天候に恵まれず、規模を縮小しての実施となりました。

市民ボランティア協働事業への延べ参加者数　（単位：人）

	平成 30 年度（コロナ前）	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度
ギャラリートークボランティア	433	中止	0	39	210
小学生美術鑑賞会ボランティア	269	中止	10	106	295
みんなのアトリエボランティア	39	中止	中止	8	29
プロジェクトボランティア　※	229	中止	15	279	231
プロジェクト当日ボランティア	26	中止	中止	6	3
小計	996	0	0	438	770
ギャラリートーク参加者	656	0	0	0	211
ボランティアイベント参加者	855	0	0	563	245
小計	1,511	0	0	563	456
計	2,507	0	25	1,001	1,226

【実施目標】

・市民が美術館に親しみを感じ、訪れる機会をつくる。

・市民ボランティアが、やりがいを持っていきいきと活動できる場を提供する。

［目標設定の理由］

・市民感覚を持ったボランティアと協働することにより、市民にとって親しみやすい美術館により近づくことができます。また、美術館への親しみ、愛着を持ったボランティアの方々を架け橋として、より広い層の市民に美術館の魅力を知っていただく機会を増やしたいと考えています。

・横須賀美術館のボランティア活動は労働ではなく、美術館が担うべき社会教育の一環です。ボランティアがそれぞれの創意と経験を活かし、仲間どうし協力し、美術館ならではの活動をしていくこと、そして、やがてそれが地域の新しいコミュニティとなることを期待しています。

・ボランティア活動がより広がるよう、活動の周知や、ボランティアによる主体的な活動の充実に努めていきます。

［一次評価の理由］

新型コロナ感染症が第５類感染症となり、徐々に活動を再開することができました。ギャラリートークを11月から再開し、５か月間で211人のお客様が参加され、目標値200人を上回る結果となりました。研修の回数に加えて、学んだことを活かす場が増えたため、生涯学習の場として機能しているように感じます。小学校鑑賞会ボランティアについても、児童数に対してボランティアを多く配置することができ、延べ295人が活動しました（目標値200人）。プロジェクトボランティアの活動（３回のうち２回）が天候に恵まれず、あいにく縮小規模での開催となったため、全体的な達成目標（1,700人）には達しませんでしたが、各活動において、ボランティアがやりがいを持ち、いきいきとした表情で活動できたため、実施目標はＢ評価としました。

〔評価委員会による二次評価及びコメント〕

	一次評価	二次評価	評価委員会コメント
達成目標	C	C	・目標達成が天候に左右されたことが残念ですが、やむを得ずC。[菊池] ・地域イベントより活性化させていただければと考えます。[関口] ・天候に恵まれずイベントが縮小されたことは残念でした。それだけが目標を達成できなかった理由であれば、問題ないような気も致します。[倉田] ・参加者数は1,700人に達していませんが、必ずしも人数だけでなく長く続けているかどうか、新規の方がどのくらい増えたか等の視点もあると良いかと思いました。[前波]
	一次評価	二次評価	評価委員会コメント
実施目標	B	A	・前年度よりも着実に参加者も増え、ポスト・コロナの取り組みを推進できている点を評価します。[柏木] ・横須賀市民の皆様へ向けてお子様向けイベントを更に増やすことが出来ればと考えます。[関口] ・研修での学びや、その学びを活かす場として、市民の生涯学習の場として機能しているとのこと、大変素晴らしいです。[倉田] ・アフターコロナ、ポストコロナの活動の在り方を、参加者とともにしばらく模索していく必要があると思います。[柏木] ・スカビ隊の皆さんのイベントはいつも楽しそうで参加したいと思える企画でした。内容の充実は素晴らしかったように思います。ギャラリートークについては参加したことがなくコメントできず申し訳ありません。資料を拝見すると活動日も多く皆さんの頑張りぶりが伝わってきます。イベントは、1月頃に1年分まとめて決定しているのでしょうか。各回のイベントの検討会も大切な活動の一つだと思いますので、活動記録に追加しても良いかと思いました。（見落としていたらすみません）[前波]

Ⅱ　美術に対する理解と親しみを深める

③ 調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす

〔一次評価〕

達成目標	実施目標
A	A

【達成目標】企画展の満足度 80%以上※

［目標設定の理由］

・展覧会を企画・実施することは、美術館にとって基本的な活動のひとつであり、中でも、企画展は、波及効果が高く、最も力を注ぐべき事業といえます。こうした認識から、企画展に対する来館者の満足度を、美術館の社会教育機能の高さを示す目安としました。

・満足度は来館者へのアンケートによって算出しており、同じ方法の調査を継続的に行っています。またその満足度の内訳は「作品」「観覧料」「配置・順路・照明」「解説」「心的充足」を計っていて、その総合数値を出しています。

・アンケートは、従来の紙に加え、令和５年８月から神奈川県の電子申請システム e-kanagawa で回答を受け付けています。展示を見た人が回答するよう、回答ページに接続する QR コードはアンケートコーナー（本館１階、谷内六郎館）と地階の所蔵品展示室に掲示しています。

・ここ数年の数値の変化の経緯を総合的に判断し、目標を 80%以上としました。

※ なお、年度ごとの「企画展満足度」を算出する際には、それぞれの企画展の観覧者数の比率を反映させています。企画展Ａの観覧者数をＡ（人）、企画展Ａの満足度をａ（%）とするとき、年度ごとの満足度（%）は

（Ａａ＋Ｂｂ＋Ｃｃ＋Ｄｄ＋Ｅｅ＋Ｆｆ）／（Ａ＋Ｂ＋Ｃ＋Ｄ＋Ｅ＋Ｆ）

で表します。

［一次評価の理由］

目標の「80%以上」を超える 89.2%という数値となりました。

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
企画展満足度	90.0%	92.7%	90.9%	89.2%

企画展別にみると、「没後40年　朝井閑右衛門展」は当館の主要なコレクションである洋画家・朝井閑右衛門の周年を機に代表作を集め、彼自身がコレクションしていた骨董や手帳などを含めて構成した展覧会。満足度では「配置・順路・照明」が87.1%、「作品」が84.8%、最も低いのが「解説」で80.6%でしたので、平均的に満足度は高かったといえます。配置が高い数値は珍しいですが、平面作品だけではなく朝井の愛蔵品を等身大の人形から小ぶりの陶磁器まで並べたり、写真を引き伸ばして展示室に貼ったので、めりはりがあったためと推測しています。

「new born 荒井良二」は、旅をするような気分で日々作品を生み出してきた荒井良二のジャンルを問わない表現の現在地を、絵本原画、新作のインスタレーション、絵画、スケッチ、立体作品から私蔵のガラクタまで織り交ぜながら紹介する展覧会でした。満足度については、項目別では「作品」が最も高く 92.0%でした。次いで「配置・順路・照明」が 91.0%でした。一番評価が低い「解説」でも 83.5%と、概ね満足感のある展覧会だったようです。絵本のファンに加えて、アートファンからも評価を得ることができました。

「ロイヤルコペンハーゲンと北欧デザインの煌めき」展は、デンマーク、スウェーデン両国の 19 世紀から 20 世紀の陶磁器、銀器、ガラス器を中心に、北欧デザインの魅力を紹介する展覧会。国内外の個人による稀少なヴィンテージ・コレクションからおよそ 200 点を展示しました。巡回展であり個々の作品についてのキャプションは字が小さく、個々の作品についての解説も不足がちと感じられたのか、「解説」の満足度は 73.6%と低迷しました。逆に、点数豊富であった「作品」についての満足度は項目別では最も高い 90.1%となり、全体では 86.4%の満足を得ました。

「となりの国の絵本　躍動する韓国イラストレーションの世界」展は、韓国で活躍する絵本作家９名による、おもに 2000 年代に出版された絵本約 40 タイトルの原画およそ 200 点を紹介した展覧会です。日本国内における韓国の絵本原画紹介展としては最大規模で、また近年、韓国絵本への国際的な評価が高まっていることもあり、アンケートでは、「作品」に対する満足度において 98.7%という高い数値を得ることができました。出品作のなかには、未邦訳の絵本が多く含まれていたことから、パネル等による解説を充実させたこと、作家ごとタイトルごとに、まとまりのある展示としたことなどの効果として、「解説」についても、81.9%と、この項目としては比較的高い数値が得られました。「総合」でも 96.2%と、全般に満足度の高い展覧会とすることができました。

「日本の巨大ロボット群像展」は、60年以上にわたる日本のロボットアニメにおけるデザインと映像表現の歴史を、45作品のアニメタイトルを取り上げ、資料など約200点を展示しました。満足度では、「作品」が90.7%と高く、ある程度知識を持った観覧者にも満足してもらうことができたと感じています。「配置・順路・照明」は、87.7%であり巡回展示品を見やすくレイアウトすることができました。「解説」が84.0%であり、パネルが大きく、文字が大きく読みやすかったことが要因と考えられます。

毎年恒例となっている「児童生徒造形作品展」の観覧者の多くは出品された子どもたちの関係者であり、内容を批判する要素に乏しいことから、他の企画展と満足度を比較するには注意が必要ですが、総合的に95.3%と高い満足度を示しています。令和３年度以降、数値が上がり、コロナを経て「本当に来たい人だけが来る」状況であることに加

え、学校の活動が制限される中、展覧会を見られる喜びが数値を押し上げていると分析しています。

各項目についての総合での満足度を見ていくと、企画展では総合で「作品」が91.2&、「配置・順路・照明」が88.5%の数値を出しています。そしてすべての項目について80%以上の数値となり、企画展の満足度は概して高かったため、達成目標をＡとしました。

【実施目標】

・幅広い興味に対応するようバランスをとりながら、年間６回（児童生徒造形作品展を含む）の企画展を開催する。

・所蔵品展・谷内六郎展をそれぞれ年間４回、テーマをもたせた特集を組みながら開催する。

・知的好奇心を満たし、美術への理解を深める教育普及事業を企画・実施する。

・美術への興味や関心が深まる美術関連の資料（図書、カタログ等）を収集し、図書室で整理・保管し利用者の閲覧に供する。

・主として所蔵作品・資料に関する調査研究を行い、その成果を美術館活動に還元する。

［目標設定の理由］

・社会教育機関としての美術館は、常に知的好奇心を満足させる事業を行い、また、そのための環境を整えていかなくてはなりません。美術として扱うべき領域はとても広く、利用者の幅広い興味に応えるためには、所蔵品展以外にもさまざまなテーマを設けた企画展を開催する必要があります。作品の借用が許される期間に限度があることなどを考慮し、１カ月半から２カ月程度を目安とした年間６回の企画展を計画・開催しています。また、コレクションの魅力を紹介するために、所蔵品展及び谷内六郎展をそれぞれ年間４回開催しています。

・さらに、横須賀美術館では、美術への親しみ、理解を深めるために、講演会やワークショップなど、年間を通じてさまざまな教育普及事業を展開しています。ここでは、広く一般向けの教育普及事業について、評価の対象とします。

・これらの事業を企画・実施するための基礎が、調査研究です。範囲は、所蔵作品に関することを中心に、広く美術に関すること、教育普及に関することを含みます。

［一次評価の理由］

５年度の企画展は、文化スポーツ観光部に移管してから二年目で、地元ゆかりの朝井右衛門展、現在活躍する絵本作家展、北欧デザイン展、韓国絵本、ロボットアニメと多岐にわたるラインナップでした。また「鈴木敏夫とジブリ展」はこれまでにない規模で開催いたしました。

「没後40年　朝井閑右衛門展」は、油彩や水墨画、素描の代表作に加え、朝井の知られざる収集品を含めて約200点を紹介し、新たな魅力を検証いたしました。朝井を知らないであろう方々にも広くその存在を知っていただくため、イラスト小冊子を作成し、関連事業として講演会、ワークショップ、ギャラリートークのほか、展示室内でコンサートを開催いたしました。

「new born 荒井良二」は、絵本ファンに加えて、普段からアートに興味がある方にも満足いただける展覧会を目指しました。展示室全体を荒井氏自身がインスタレーション的手法で展示し、まるでおもちゃ箱をひっくり返したような展示となると同時に、ワークショップで参加者が紡いだ物語が展示の一部になったり、展示室内で音楽家とともにライブを行うなど、展示と普及活動が連動した展覧会でした。

「ロイヤルコペンハーゲンと北欧デザインの煌めき」展では、それぞれは比較的小規模なおよそ 200 点の作品を疲れずに鑑賞できるよう、グループごとに展示方法を変える、作品の一部をクロースアップした画像を装飾的に展示するなど、展示にメリハリを持たせるよう工夫しました。

「となりの国の絵本　躍動する韓国イラストレーションの世界展」は、広く関心を集めつつも、美術館での展覧会のような、まとまった形での紹介がこれまでなかった領域を取り上げたことで、関心層のニーズや期待に応えることができたと考えます。また、展示にあたって、展覧会としては新規領域であることを考慮し、解説パネルや図録等を充実させ、観覧者の知的欲求に応えるよう努めました。

「日本の巨大ロボット群像」展は、これまであまり試みられてこなかった、60年以上にわたる日本の巨大ロボットのアニメーション史を、そのデザインやサイズとともに俯瞰できる展覧会であり、幅広い世代の方に観覧していただくことができました。また、横須賀市出身で日本のロボットアニメーションにおける、メカニックデザイナーの草分け的存在である宮武一貴氏には、巨大絵画の制作や講演会を行ってもらい、地域性を高め市内からの観覧者の誘致も図ることができました。

所蔵品展では、会期ごとに特集を組み借用作品も加えて、より魅力のある展示となるよう努めました。また令和５年度から箱根エリアとの観光誘客連携の取り組みの一環として、箱根エリアの美術館の展示を行いました。

第１期は特集として、「アートでつなぐ山と海：箱根・横須賀連携企画第１弾　箱根ラリック美術館所蔵「明日への祈り展　ラリックと戦禍の時代」を開催しました。またふるさと納税を活用した基金によって購入した作品および寄贈作品を紹介する「令和４年度新収蔵品展」を開催しました。

第２期では、横須賀美術館の屋外彫刻作品でありアイコンでもある《Valleys》に焦点を当てて「没後20年　若林奮」を開催し、収蔵する約240点のドローイング、立体をご紹介しました。

第３期では、三浦市在住で地域ゆかりの重要作家である「勝又豊子　不在の向こう―白い余白」を開催し、勝又のインスタレーション、映像作品を特集しました。

第４期では特集として谷戸地域にあるアーティスト村「YOKOSUKA ART VALLEY HIRAKU」で活動する４名のアーティストの作品を紹介しました。

谷内六郎館では、所蔵品展の会期と連動して、年４回の展示替えを行っています。１期は「影のイマジネーション」、第２期は「荒井良二が選ぶ　谷内六郎＜週刊新潮　表

紙絵＞展」、第３期は「建物いろいろ」、第４期は「ずっとともだち」の特集をそれぞれ組みました。

令和５年度はバラエティに富んだ展覧会、そして３月下旬から「鈴木敏夫とジブリ展」を行い、通常よりも本数が多く７本となりました。ジブリ展についての満足度等の分析は令和６年度で行う予定です。第４期の所蔵品展については、当初とスケジュールを変更し、それに伴って、朝井閑右衛門作品を２階ギャラリーで小展示を行いました。

また、所蔵品展示室の一部を使用し、箱根との連携展や、田浦のアーティスト村の作家を紹介、エリア作家の展覧会など、所蔵品だけではなく中規模の企画を開催しています。

これらを総合的に判断しＡ評価といたしました。

教育普及事業（一般向け）については、下表のとおりとなります。

対面型の事業を再開し、講演会やワークショップに加え、音楽会やライブペインティングなど幅広い事業を行うことにより、一定の成果を上げることができました。

展覧会に関連したパフォーマンス等の実施

タイトル	実施日	参加者数（人）
朝井閑右衛門展関連「カテリーナ古楽合奏団　中世・ルネサンス音楽会」	6/11	52
荒井良二展関連「LIVE&PAINTING　荒井良二と野村誠の「横須賀じゃあにぃ・出航」」	7/1	40
韓国絵本展関連「音楽とダンスと絵本で楽しむ韓国フェス@横須賀美術館　①日韓の音楽家によるクラシックコンサート」	11/18	147
韓国絵本展関連「音楽とダンスと絵本で楽しむ韓国フェス@横須賀美術館　②高校生ステージ　KPOP カバーダンスと絵本『大きくなった！』の韓国語による朗読」	12/17	95

展覧会に関連した講演会、ギャラリートーク等の実施

タイトル	実施日	参加者数（人）
朝井閑右衛門展関連「めくるめき田浦の時代」	5/14	22
谷内六郎館関連「ここでしか聞けない　中村八大×谷内六郎「遠い日の絵本」エピソード」	7/30	46
ロイヤルコペンハーゲン展関連「ロイヤルコペンハーゲン　ビング　オーグレンダール」	9/24	35
ロボット展関連「特別対談　宮武一貴×石渡マコト」	2/23（午前・午後）	140
第４期所蔵品展特集展示関連「アーティストトーク　折原みと」	2/24	35

第４期所蔵品展特集展示関連「パフォーマンストーク 薬王寺太一×山本愛子×水戸部春奈	2/25	60
学芸員によるギャラリートーク	5/20, 6/3, 10/7, 10/21	49

展覧会に関連した動画制作および公開（当館 YouTube にて公開）※2024年６月９日現在

タイトル	公開日	再生回数（※）
第３期所蔵品展「特集：勝又豊子」インタビュー	10/10	909

展覧会に関連したワークショップ等の実施

タイトル	実施日	参加者数（人）
朝井閑右衛門展関連「ビーズ刺繍のブローチづくり」	5/5	18
荒井良二展関連「ワークショップ＆アーティストサポート　荒井良二と「物語を汲み出す」２日間」	6/24, 6/25	23
ロイヤルコペンハーゲン展関連「ポーセラーツで描く！夢のうつわ」	9/30（午前・午後）	24
韓国絵本展関連「スッキョン先生の韓国語講座　絵本のリズムで学ぶ韓国語」	11/19	13
韓国絵本展関連「読書会　読んで語ろう！CHEKCCORI プロデュース　わたなべなおこの“出張”クリムチェクイヤギ」	12/2	15
第４期所蔵品展特集展示関連「植物の色と脈をなぞって自然科学と美術で遊ぶバンドルダイ・ドローイング・ワークショップ　水戸部春奈×横須賀美術館」	2/18	18

展覧会関連以外のワークショップ等の実施

タイトル	実施日	参加者数（人）
オトナ・ワークショップ「ガラスのおさらをつくりましょう」	7/23（午前・午後）	20
シネマパーティー2024 in 横須賀美術館『パブリック図書館の奇跡』（日本語字幕版）	2/3, 2/4	62
オトナ・ワークショップ「九谷焼大皿絵付け」	3/10	14

他課との連携等

タイトル	実施日	参加者数
Koyart　（農業振興課他と連携したマルシェ）	11/4, 11/5	－
筆ロック　関東大会 FINAL（一般社団法人筆 WONK と共催）	9/2	－

図書室については、美術史・デザイン・建築・写真など幅広い分野の美術図書、展覧会図録、所蔵作家に関連する資料、子ども向けの美術入門書、定期購読雑誌などを収集・公開し、多くの来館者に利用されています。室内環境の整備・維持に努め、レファレンスサービスやコピーサービスに対応し、図書室の利用を支援しています。

〔評価委員会による二次評価及びコメント〕

	一次評価	二次評価	評価委員会コメント
達成目標	A	A	・要素別の満足度も高い数値で安定しており、Sに近いAと評価します。[柏木] ・首都圏マーケットへ向けて広範囲のお客様獲得へ向けて企画展を行っていただきたいと考えます。[関口]
	一次評価	二次評価	評価委員会コメント
実施目標	A	A	・所蔵品展の「解説」に対する満足度が、R4から急に低下しているが、何か原因があるのか。(R3 86.3%→R4 72.0%→R5 71.3%) [菊池] ・毎回、展示に合わせた図書の選書も楽しみにしております。児童生徒造形展については、生徒・その家族の来館を促し、今後の来訪のきっかけにもなるのでよい取り組みだと思います。[前波] ・企画展のテーマが幅広く、あまり美術に詳しくなくてもさまざまなジャンルを観覧する機会となりいい。[前波]

④ 学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する

〔一次評価〕

達成目標	実施目標
B	A

【達成目標】中学生以下の年間観覧者数 22,000 人

［目標設定の理由］

・子どもたちが美術館に親しみを持ち、利用しやすくするため、さまざまな取り組みを行い、その成否を観覧者数によって評価しています。

・例年、子どもや家族層にも親しみやすい企画展を１つ以上開催することとし、目標達成のための契機としています。令和５年度は、夏に「荒井良二」展、秋に「躍動する韓国イラストレーションの世界」展を開催し、絵本原画など子どもたちが親しみやすい作品を紹介します。また、２月からは「日本の巨大ロボット群像」展を開催し、２世代、３世代にわたる家族層の来館を促します。

［一次評価の理由］

目標に対 95.6 パーセントの達成率であったため、一次評価をＢとしました。

小学生美術鑑賞会をはじめ学校連携等は、年度当初の見込みどおり実施できた一方で、ゴールデンウィークにあたる５月と、夏休みにあたる７、８月の、中学生以下の観覧者がやや低調でした。

むしろ、２月、３月の中学生以下の観覧者数が例年より多かったことが、令和５年度の特徴で、ロボットアニメ、ジブリといったテレビ番組等でなじみのあるテーマが、家族層に対し、より強い訴求力を持ったことがうかがえます。従来は当館の強みであった絵本作家の個展等における、家族層への訴求が今後の課題といえます。

中学生以下の観覧者数　（単位：人）

	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度
幼児	1,484	3,244	3,039	4,912
小学生	3,210	9,000	10,831	12,761
中学生	1,093	2,081	2,971	3,362
計	5,789	14,325	16,841	21,035

【実施目標】

・学校における造形教育の発表の場として、児童生徒造形作品展を実施する。

・学校及び関係機関と緊密に連携し、子どもたちにとって親しみやすい鑑賞の場をつくる。

・学校との連携を強化し、小学生美術鑑賞会を充実させる。

・美術館を活用した鑑賞教育がいっそう充実するよう、先生のための美術館活用講座をはじめ、教員の授業作りに有益な情報提供を積極的に行う。

・子どもたちとのコミュニケーションを通じて、美術の意味や価値、美術館の役割などに気づき、考え、楽しみながら学ぶ機会を提供する。

・鑑賞と表現の両方を結びつけたプログラムを実施する。

［目標設定の理由］

・観覧者数の面では、その年度の展覧会の内容に左右されがちな項目ですが、実施目標の面では、年間を通じた取り組みによって、展覧会の内容にかかわらず、子どもにも親しみやすい美術館であるとの評価が得られるよう努めています。

・子どもや家族層に向けた取り組みとともに、学校連携を重視しています。

・学校連携では、学校による美術館活用の推進、鑑賞を通した言語活動の充実、校外での児童の作品展示など、図工・美術の学習指導要領を踏まえた具体的な取り組みを進めています。また、教員のニーズを把握するよう努めています。

・学校とは違った美術館ならではのプログラムを提供し、子どもたちが美術に親しむ機会を拡充することも重要です。家族で参加できるワークショップなどにも力を入れていきます。

［一次評価の理由］

子ども・親子向けのワークショップを実施し、一定の成果を得ることができました。また、児童生徒造形作品展では、観覧者数16,479人と、例年並みの水準を回復しています。教育委員会と連携し令和４年度より開始した谷内六郎作品にちなんだ給食の提供については、解説動画の共有方法を改善するなどして定着へ向けて進んでいます。以上の実績に基づき、一次評価をＡとしました。

展覧会に関連した子ども・親子向け事業

タイトル	実施日	参加者数(人)
子ども向けワークショップ「日本画の絵具や墨で三浦半島の植物を描こう！」	5/20	13

令和５年度に開催したその他の子ども・親子向け事業

タイトル	実施日	参加者数(人)
中学生のための美術鑑賞教室	7/20～8/31 鑑賞ガイド配布 鑑賞教室5回 特別講座1回	40人
野外シネマパーティー2023 in 横須賀美術館『劇場版　ムーミン谷の彗星』	8/26, 8/27	547
おやこワークショップ「干支（辰）の絵付け教室」	11/23 （午前・午後）	39
こどもワークショップ「版画でカバン」	3/3 （午前・午後）	17
先生のための美術館活用講座（県と共催）	8/21	19
市立中学校の職業体験受け入れ	通年	18 （10校受入）
市立保育園8園対象の鑑賞プログラム	通年	208

令和５年度に開催したその他の学校連携事業（教育委員会学校食育課との連携事業）

タイトル	実施日	参加者数
谷内六郎にちなんだ給食メニュー提供と解説ＤＶＤの制作及び配布	11/27～11/30	市立小・中学校・特別支援学校（全71校）

〔評価委員会による二次評価及びコメント〕

	一次評価	二次評価	評価委員会コメント
達成目標	B	B	・あと少しで目標達成数値でしたが、やむを得ずＢ。[菊池]
	一次評価	二次評価	評価委員会コメント
実施目標	A	A	・前年度より観覧者数も増えて、改善すべき点を洗い出し取り組んでいる点を評価します。[柏木] ・保育園児向けの遊びを交えた活動、対話による鑑賞など、年齢に応じた鑑賞にもたいおうされていて素晴らしいと思いました。[前波] ・中学生の感想で「つまらないけどおもしろかった」とあったが、これまで美術に関心のなかった子が、美術に触れ、つまらない、そして面白いという感想を持ったのは大きな意味があると思った。今後も引き続き、幅広い子どもたちに美術に関わる機会を提供できると良いと思いました。[前波]

⑤ 所蔵作品を充実させ、適切に管理する

〔一次評価〕

達成目標	実施目標
A	A

【達成目標】環境調査の実施（年２回）
美術品評価委員会の開催（年１回）

［目標設定の理由］

・作品収集は、美術館としての基本的な活動のひとつです。ただし、新規収蔵作品の数量の多寡は、状況に左右される部分が大きく、また、多ければ多いほどよい、という性質のものでもないため、数値目標とするにはふさわしくないと考えます。

・収集のための情報収集や調査を継続的に行っていれば、受け入れの可否を諮問するために美術品評価委員会を開催することとなります。ここでは、少なくとも年に１回、美術品評価委員会を開催することを、収集活動に関する数値目標とします。

・また、収蔵庫と展示室の環境が作品の保管、展示に適しているかどうか調べる環境調査を、年２回実施することを、保管に関する数値目標とします。

［一次評価の理由］

環境調査について、５月８日～６月５日、７月10日～８月８日の日程で２回実施しました。

また、１月26日に当年度の美術品評価委員会を開催し、購入作品20点、寄贈作品・資料12件343点、新規寄託作品12点について審議しました。

目標を達成したため、一次評価はＡとしました。

【実施目標】

・収集方針に基づき、主体性を持って積極的な収集活動を行う。

・作品の保管、展示について適正な環境を維持し、そのチェックのため必要な調査を実施する。

・計画的に所蔵作品の修復、額装を行う。

・所蔵作品が広く価値を認められ、他の美術館等で開催する企画展などに活用されている。

［目標設定の理由］

優れた美術品を広く収集し、次世代に伝えてゆくことは、美術館の果たすべき基本的な役割です。そのために、作品の保管、展示のための適切な環境整備と、作品そのものの修復及び保護を行っています。他の機関での展示等の所蔵品の活用は、作品への影響をじゅうぶんに考慮したうえ、可能な範囲で行っています。

［一次評価の理由］

令和５年度は、写真作品20点を購入したほか、寄贈により作品・資料12件343点を受け入れました。購入した20点は、現代日本を代表する写真家のひとりである森山大道が、1965年当時の横須賀の街を被写体とした作品です。森山大道作品については、購入分の20点に加え、1970年前後に撮影された10点の寄贈を受けました。

さらに、いずれも地域にゆかりのある作家５名の作品・資料を寄贈により受け入れました。川田祐子《硯海》は、この作家独特のハッチング技法による大作であるばかりでなく、彼女が幼少期を過ごした横須賀市長沢の砂浜を想起させます。島田章三の２点、石川忠一の２点は、いずれも長く寄託されてきた作品をあらためて寄贈として受け入れたものです。中村光哉の２点は、当館のコレクションに今まで含まれていなかった「黒の時代」の作品を補う存在です。谷内六郎の作品・関連資料326点は、令和３年度の「生誕100年　谷内六郎展」のために遺族よりお預かりしたものの一部であり、今後、数年間にわたって、整理確認の済んだものから順に受け入れる予定です。

環境調査について、収蔵施設・１階展示室では、例年とほぼ同じ良好な結果が得られています。一方で、地下の展示室・ギャラリーでは、じゃっかんの昆虫類の侵入がみられました。今後も調査を継続し、必要に応じて防除等の処置を行います。

修復・額装について、令和３年度に購入した矢崎千代二作品の修復を実施しました。また、当年度の企画展「朝井閑右衛門展」のために一時的に額から外して展示した朝井による小品について、もとの額に再装丁するとともに固定状態の改善を行ったほか、朝井作品の額の改修を行いました。当年度に購入及び寄贈により受け入れた写真作品30点については、ブックマット装を施したうえ、新規の写真用汎用額に装丁しました。

他の美術館で企画された展覧会５件に対し、所蔵作品18点を貸し出しました。４会場を巡回する「春陽会誕生100年　それぞれの闘い」展に版画作品を貸し出しする際には、作品保護のため、展示期間についてそれぞれ２会場、各半期ずつとする制限を設けました。

森山大道《ヨコスカ》をはじめ、今年度収集した作品はいずれも、地域の美術館としてコレクションに加えることが妥当と考えられる作品ばかりでした。保管・展示環境の調査と維持、所蔵作品の保全と活用のための修復・額装についても、大きな問題なく計画的に進められていることから、一次評価をＡとしました。

［次年度への課題］

・作品データベースの公開と、画像データの管理について方法を検討します。

・所蔵する作品の状態調査をさらに進め、適切な修復・額装を行います。

〔評価委員会による二次評価及びコメント〕

	一次評価	二次評価	評価委員会コメント
達成目標	A	A	
	一次評価	二次評価	評価委員会コメント
実施目標	A	A	・次年度の課題として、作品データベースの公開と、画像データの管理方法の検討を考えておられるようですのですので、検討の成果を楽しみにしています。［小林］ ・今後の継続的な購入による収集に期待いたします。［柏木］ ・細かく管理状況の記録があり大変わかりやすかった。［前波］

Ⅲ　訪れるすべての人にやすらぎの場を提供する

⑥ 利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する

〔一次評価〕

達成目標	実施目標
A	A

【達成目標】

・館内アメニティ満足度 90%以上

・スタッフ対応の満足度 80%以上

［目標設定の理由］

・達成目標の適正基準として、それぞれ 90%以上、80%以上を設定しました。
この目標値は、過去の実績を参考に、目標を高く持ちつつも達成が決して不可能ではないと思われる数値であり、言い換えれば、目標値の達成イコールかなりの高水準を維持できていると思われる数値としました。

・満足度は、来館者アンケートの質問８項目（アクセス、館内印象、静かさ、スタッフ、休憩所、トイレ・授乳室、清潔感、総合）の内、外部要因や展覧会等の企画内容による影響を受けにくい２項目（スタッフ、総合）を指標として使用しています。

・館内アメニティ満足度については、来館者アンケートの質問事項「全体的にみて、館内では気持ちよく過ごせた。」に対する満足度（総合満足度）、スタッフ対応の満足度については、来館者アンケートの質問事項「スタッフの対応・案内は適切だった。」に対する満足度を指標としています。
なお、原因を究明し改善に役立てるため、平成 24 年度から５段階評価に加え、「特によかったところ、よくなかったところ」を具体的に記述していただく欄を設けています。

［一次評価の理由］

館内アメニティ満足度、スタッフ対応の満足度ともに高水準で目標を達成しています。そのため「A」評価としました。

	令和2年度	令和 3 年度	令和4年度	令和5年度
館内アメニティ満足度	95.7%	95.8%	94.7%	94.5%
スタッフ対応の満足度	92.9%	93.2%	90.8%	89.8%

館内アメニティ満足度に関して、「自然に囲まれたロケーションや景観がすばらしい」「清潔感がある」など、当館の環境について好意的なご意見を多くいただきました。

一方で施設の劣化は年々進んでおりますので、安全性と美観を維持し、お客様が気持ち良く過ごすことができるよう、改善に向けて今後も工夫を重ねていきます。

【実施目標】

・建築のイメージを損なわないよう、十分なメンテナンス、館内清掃を行う。

・受託事業者と協力して、ホスピタリティのある来館者サービスを実践する。

・運営事業者と協力して、附帯施設（レストラン及びミュージアムショップ）を来館者ニーズに応じて運営する。

［目標設定の理由］

・横須賀美術館が来館者に好ましい印象を持たれている大きな要因の一つは、周囲の豊かな自然と、その風景と調和したユニークな建物です。しかし、海のそばに立地しているため、強い風雨にさらされることも多く、また塩害などによる老朽化が進んでいることも事実です。建築の魅力をいつまでも来館者に伝えていくためには、適切なメンテナンス、清掃を継続していくことが重要です。

・また、スタッフの対応によって、美術館に対する印象は大きく左右されますので、受付・展示監視スタッフ等の受託事業者との緊密な連携を図り、来館者の立場に立ったより良い接客を目指します。

・美術館を訪れた際の買い物や食事も、来館者の大きな楽しみです。レストラン及びミュージアムショップと連携し、来館者のニーズに即応したサービスの提供がなされるよう、知恵を出し合い、工夫を重ねていきます。

［一次評価の理由］

（メンテナンス）

・館内の非常用発電機が故障したため修繕を実施しました。

・空調熱源設備の不具合が複数個所発生したため、ＨＰ－１の圧縮機およびＨＰ－１、ＨＰ－２のチラーユニット電装品の交換修繕を実施しました。

・本館屋根ガラスのシーリングの腐食により、雨漏りが発生することがあったため、昨年度に続き、劣化部分のシーリングの張替え修繕を実施しました。

・地下駐車場警備室内の監視カメラ確認用の端末一式が故障したため交換修繕を実施しました。

【令和５年度の主な修繕（100 万円以上の案件を抽出）】

区分	案件	金額（円）
機械設備	非常用発電機修繕	5,500,000
機械設備	空調熱源設備　ＨＰ‐１圧縮機交換修繕	4,400,000
機械設備	空調熱源装置　ＨＰ‐１、２チラーユニット電装品交換修繕	2,200,000
施設	本館屋根ガラスシーリング修繕	1,829,960
機械設備	地下駐車場警備室内　監視ポイント交換修繕	1,097,800

（清掃）

・日常の清掃について、利用状況に応じて重点を移す効率的な清掃を心掛けています。

（受付・展示監視）

・受付や展示監視に従事するスタッフは、来館者と直に接するためクレームの対象となりやすい立場にあります。特に展示監視は、展示物に触ろうとする来館者や迷惑行為をしている来館者への注意などを行うため、クレームを受けやすい業務です。年に数件のクレームはありますが、受託事業者の自助努力（研修、スタッフの入替など）や、館内における情報の共有化の促進によって日々改善の努力を続けており、満足度の数値も一定以上の水準に達しています。

・情報の共有や、来館者への対応方法の指示などをきめ細かく行う目的で、来館者からのクレーム内容や対応の記録を日報として毎日提出するよう、平成21年度より展示監視スタッフに義務付けています。
また平成26年10月の受託事業者変更時から受付スタッフにも日報の提出を義務付けており、課題が生じた場合に迅速に対応する事ができるようにしています。

・現在の受託事業者においては、社内講師による研修や外部講師による接遇マナー研修を実施するとともに、事業者独自の覆面調査員による接遇チェックも行なわれており、その結果はスタッフ対応の満足度向上となって現れていると考えられます。

（ミュージアムショップ）

・利用者アンケートの満足度が向上するよう、定期的な打合せを実施し事業者と協力しています。

（レストラン）

・メニューの見直しなど運営事業者の自助努力により満足度はかなり向上しています。満足される理由としては、「質の高い食事」「おいしい」のほか、「景色がよい」ことも挙げられています。

・企画展ごとに、展示のイメージや内容に合わせた「コラボレーションメニュー」を考案して提供しており、好評を博しています。

・顧客のストレスを軽減するため、土日祝日の混雑時（12時～15時）については事前予約をとらず、先着順に対応しています。

・令和５年４月８日より、レストラン横の屋外スペースにて、軽食や飲み物等の販売を行うキッチンカーの営業を開始したことにより、飲食の際の選択肢の増加、レストランの混雑緩和など、顧客満足度の向上につながっています。

（災害への備え）

・例年通り年２回の防災訓練を実施しました。避難経路の確認および誘導に重点を置いた実践に即した内容で、受付展示監視をはじめ事業者のスタッフも参加して充実した訓練となりました。

（その他）

・平成 21 年度より、毎月１回、レストラン、ショップ、受付展示監視、警備、広報、総務、学芸の参加による運営事業者連絡会議を開催し、館内で起こっている諸問題について情報共有、改善の提案、検討を行なっています。平成 26 年度からは設備日常監視業務の受託事業者も参加しています。

これらを総合的に勘案し、「A」評価としました。

〔評価委員会による二次評価及びコメント〕

	一次評価	二次評価	評価委員会コメント
達成目標	A	A	
	一次評価	二次評価	評価委員会コメント
実施目標	A	A	・高い水準を維持しており素晴らしい。［菊池］

⑦ すべての人にとって利用しやすい環境を整える

〔一次評価〕

達成目標	実施目標
S	A

【達成目標】　福祉関連事業への参加者数延べ 175 人以上

［目標設定の理由］

・福祉関連の事業は、内容の充実を図るために対象や参加人数を限定する場合があり、そうした場合は参加者数が減ることとなります。しかし、限定したからこそ、対象の特徴に応じたプログラムの計画実施が可能となり、普段美術館を利用しにくい方でも参加することができる事業を行うことができます。

・このため、福祉関連事業は、その年の事業の性格次第で参加者数の増減が大きくなりがちです。

・また、事業の対象となる方が、感染症の影響を受けやすい健康状況であることを想定し、1 回の参加者数を抑え、余裕を持ったスペースで活動を行う場合があります。

・以上のことから、令和５年度の目標値を「175 人」とします。

［一次評価の理由］

令和５年度の福祉関連事業は、障害児向けワークショップ「みんなのアトリエ」、大人の障害者を主な対象とした福祉関連イベントなど、対面ワークショップや鑑賞プログラムを実施し、多くの方が参加しました。目標値を120%以上大きく上回ったため、S 評価としました。

福祉関連事業への参加者数　（単位：人）

<table>
<tr><th></th><th>令和２年度</th><th>令和３年度</th><th>令和４年度</th><th>令和５年度</th></tr>
<tr><td>教材制作 ※1
(旧:福祉関連講演会)</td><td>中止</td><td>触察用点字版パンフレット(2種)、触図制作</td><td>触察用作品レプリカ制作</td><td>触察用触図制作</td></tr>
<tr><td rowspan="2">福祉関連イベント</td><td>中止</td><td>中止</td><td>32</td><td>14</td></tr>
<tr><td rowspan="2">8</td><td>12</td><td>3</td><td>84</td></tr>
<tr><td>他館連携(MULPA)※2</td><td>終了</td><td>終了</td><td>終了</td></tr>
<tr><td>みんなのアトリエ※３
(障害児者向けワークショップ)</td><td>中止
⇒動画</td><td>中止
⇒動画</td><td>⇒動画
⇒(再開)54</td><td>156</td></tr>
</table>

託児	中止	中止	実施	実施
計	8	12	89	254

※１　福祉講演会は、令和３年度以降、視覚障害者等を対象とした建物および作品の触察図作りに変更しています。

※２　平成 29 年度より始まった他館連携において、障害者を対象とするワークショップの実施は令和２年度で終了しました。今後は、構成メンバーによるネットワークを維持し、アクセシビリティ向上や普及プログラム作成のための継続的な情報交換を行うこととします。

※３　みんなのアトリエ参加者は、保護者やきょうだい児を含みます。

【実施目標】

- **年齢や障害の有無などにかかわらず、美術に親しんでもらう（環境づくりの）ための各種事業を行う。**
- **必要に応じて、触察図など鑑賞補助ツールを用いながら、対話鑑賞等の人的サポートを実践する。**
- **展覧会の観覧やワークショップ等に参加される保護者向けの託児サービスについて、積極的に周知し、利用しやすい内容で実施する。**

［目標設定の理由］

・各種事業を通じて、美術館が健常者のみの施設ではないこと、障害の有無に関わらず美術を楽しめること、また各年齢や状況に応じた楽しみ方があることを伝えていくことが重要です。

・設備や什器を新規に導入することは難しいため、令和３年度より制作を始めた触察図など鑑賞補助ツールを用いながら、対話鑑賞のような人的対応によるプログラムを充実させることによって、福祉の充実につなげたいと考えています。

・障害者等のニーズを、職員が実践を通して知ることによって、次年度以降の取り組みや長期計画に活かします。

・子どもを持つ方が安心して美術館事業に参加できるよう、託児サービスを行っています。平成 30 年度より、託児の利用者数を目標値に含めないこととしましたが、託児は引き続き実施されます。乳幼児を持つ人が、それによって美術館利用を妨げられることのないよう、引き続き適切に託児を実施するとともに、そのための周知に努めることとします。

［一次評価の理由］

障害のある方を対象とした事業や託児を実施することができ、多くの方に参加していただけたためＡ評価としました。

「みんなのアトリエ」は、対面ワークショップを再開しました。講師を増やし、３名体制としたことで、身近な素材をつかった工作のほか、嗅覚や触覚に重点を置いた

活動に取り組むことができました。

教材制作（旧：福祉講演会）は、谷内六郎作品の部分拡大触図を制作しました。これは以前作成した谷内六郎作品の触図を鑑賞する際に、補助として使うことを想定したものです。これまで障害者が触察する様子を何度か見学させていただき、補助的触図の必要性を感じたため制作しました。谷内六郎作品触図を貸し出す際に、あわせて活用していきます。

福祉関連イベントとして、市内の作業所や福祉施設、放課後デイを対象としたワークショップを開催しました。また、視覚障害者をはじめ誰でも参加することができる鑑賞プログラムを実施しました。どちらも数年つづけて開催することで、ニーズを把握し、ノウハウを蓄積しながら、さまざまな特性を持った方々を受け入れるための素地をつくっていきます。

託児は、イベント実施に伴って13回、定期託児として４回の募集を行いました。そのうち定例託児において、２回５名の利用がありました。次年度においても、美術館が設定した募集日以外にグループの希望日での利用を募るなど、引き続きニーズを探りながら、小さなお子様連れの方が利用しやすいサービスとなるよう検討していきます。

〔評価委員会による二次評価及びコメント〕

	一次評価	二次評価	評価委員会コメント
達成目標	S	S	
	一次評価	二次評価	評価委員会コメント
実施目標	A	A	・部分拡大触図の制作をはじめ、様々な面できめ細かな配慮がうかがえる。[菊池] ・対面ＷＳも再開し、ポスト・コロナの取り組みを着実に推進している点を評価します。[柏木] ・美術館で託児サービスがあるのは子を持つ母にとっては大変ありがたいです。一方利用者があまりいないのはサービスについて知られていないのか、ニーズがないのか、気になりました。[前波]

⑧ 事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する

〔一次評価〕

達成目標	実施目標
A	A

【達成目標】　電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数を、過去２年間の平均値を目安とする。

［目標設定の理由］

・電気料、水道使用料は、美術館の総事業費の約２割弱を占めることから、達成目標を定め管理していく必要があります。

・職員が努力した効果を目に見えて感じることができるように、電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数の平均値を目安とします。

・今までの目標は直近３年間の平均値としていました。しかし、令和２年度および令和３年度は臨時休館を実施し、参考指標とならないため、令和５年度の目標は令和元年度及び令和４年度の２年間の平均値としました。

・これらの使用量は、気候や来館者数等の外的要因によって大きく変動するため、個々の数値目標の達成にこだわるよりも、増減の原因分析をとおして状況把握に努めるための目安値とします。

［一次評価の理由］

	R02	R03	R04	R05（目標）	R05（実績）	達成率
総電気使用量(kWh)	2,186,586	2,454,236	2,622,276	2,596,057	2,710,442	0.96
水道使用量(㎥)	3,464	4,258	4,967	4937.5	4,483	1.10
事務用紙使用枚数(枚)	188,200	179,000	208,000	224,000	104,750	2.12

電気使用量については、夏の猛暑の影響等により、目標数値を若干上回りました。

水道使用量、事務用紙使用枚数については、目標の使用枚数を下回りました。特に事務用紙使用枚数については、財務事務における電子決裁の導入等によりペーパーレスによる事務処理が定着してきたこともあり、目標を大幅に超える形となり、効果が顕著に表れる結果となりました。引き続き、電子決裁の推進および用紙の裏面使用やデジタルツールの等の活用により、資料印刷を抑え、削減につとめていきます。

これらを総合的に勘案し、「A」評価としました。

【実施目標】　職員全員が費用対効果を常に意識し、事業に取り組む。

［目標設定の理由］

・サービスを低下させず経費を削減しスリムな運営体制を目指すためには、職員全員が費用対効果を常に意識した行動が必須であると考え、実施目標としました。

［一次評価の理由］

・各業務の予算執行時には、複数業者からの見積書徴収や競争入札を行うなど、業務の質を担保しつつ最も少ない経費で業務を執行し、経費削減を実現しています。

具体的な内容の主なものは、次のとおりです。

・事業者選定においては、定められた基準等により契約額及び契約先は入札によって決定します。特定の業者でなければ実施できない業務を除いて見積り合せを行っています。この結果、事業の質を担保しつつ最も少ない経費で業務を実施しています。

・展覧会関連の出張については、スケジュールをまとめ、出張経路を最短に設定し、経費を削減しています。

・当館のホームページやSNSを活用した情報発信を積極的に取り入れ、パンフレット等、印刷物の作成は過去の実績を踏まえながら必要最低限に留めることにより、経費の削減に努めています。

・事務用品についても在庫の整理、送料削減のために一定数をまとめて調達するなど、コスト意識を持って必要な物品の調達を行っています。

これらを総合的に勘案し、「A」評価としました。

［次年度への課題］

・令和６年２月以降、電力契約が最終保障供給契約から業務用季時別電力契約に変更となったことに伴い、利用料金が以前と比べ安価にはなったものの、社会情勢に伴う資源高騰等が続いており、今後も電気代の値上げは避けられない状況です。施設の維持管理や作品保存の観点から、使用量の削減は難しいですが、他方で職員の業務執行においては、不要な使用を控え、削減する意識を持ち続けるように、定例会議等で啓発を行います。

・業務執行において経費を節減することは当然ですが、同じ費用の中で最大限の効果を発揮できるように、計画段階や業務執行の中で継続して考えていきます。

〔評価委員会による二次評価及びコメント〕

	一次評価	二次評価	評価委員会コメント
達成目標	A	A	
	一次評価	二次評価	評価委員会コメント
実施目標	A	A	・サービスの低下や快適さを阻害することなく、バランスの取れたコスト意識の共有が保たれている。[菊池]

４ 横須賀美術館運営評価委員会 委員名簿

	氏 名	役職等	区分
委 員 長	小林 照夫	関東学院大学名誉教授	学識経験者
委 員 （委員長職務代理者）	菊池 匡文	横須賀商工会議所専務理事	関係団体の代表
委 員	柏木 智雄	横浜美術館副館長	社会教育関係者
委 員	関口 洋輔	ラビスタ観音崎テラス支配人	関係団体の代表
委 員	三浦 匡	横須賀市立根岸小学校校長	学校教育関係者
委 員	倉田 睦	市民委員	市民
委 員	前波 美雪	市民委員	市民

５　横須賀美術館運営評価委員会条例

（設置）

第１条　博物館法（昭和26年法律第 285号）第９条の規定に基づき、横須賀美術館の運営の状況の評価及びその評価の結果に基づく改善策に関し、市長の諮問に応ずるため、本市に地方自治法（昭和22年法律第67号）第 138条の４第３項の規定による附属機関として、横須賀美術館運営評価委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（組織）

第２条　委員会は、委員７人以内をもって組織する。

２　委員は、市民、学識経験者、関係団体の代表者、学校教育関係者、社会教育関係者及びその他市長が必要と認める者のうちから市長が委嘱する。

３　委員の任期は、２年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員長）

第３条　委員会に委員長を置き、委員が互選する。

２　委員長は、会務を総理し、会議の議長となる。

３　委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代理する。

（会議）

第４条　委員会の会議は、委員長が招集する。

２　委員会は、委員の半数以上の出席がなければ、会議を開くことができない。

（委員以外の者の出席）

第５条　委員会において必要があるときは、関係者の出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。

（その他の事項）

第６条　この条例に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会の同意を得て委員長が定める。

附　則

（施行期日）

１　この条例は、平成25年４月１日から施行する。

（経過措置）

２　第２条第３項の規定にかかわらず、この条例の施行後初めて委嘱された委員の任期は、平成25年９月30日までとする。

令和５年度　横須賀美術館　運営評価報告書

令和６年８月

横須賀市文化スポーツ観光部美術館運営課

〒239-0813
神奈川県横須賀市鴨居４－１
TEL 046-845-1211